

平成31(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立城山東小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成31(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成31(2019)年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

中学校 第2学年 (国語、社会、数学、理科、英語、質問紙)

4 本校の実施状況

第4学年	国語	34人	算数	34人	理科	35人
第5学年	国語	21人	算数	21人	理科	21人

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

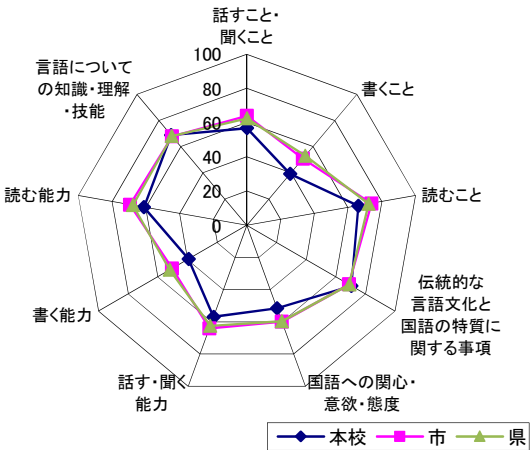
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立城山東小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	56.8	64.0	62.5
	書くこと	39.3	50.9	53.1
	読むこと	66.2	73.9	72.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	70.5	68.9	69.1
観点	国語への関心・意欲・態度	51.5	59.9	59.7
	話す・聞く能力	56.8	64.0	62.5
	書く能力	39.3	50.4	52.0
	読む能力	61.0	69.3	67.6
	言語についての知識・理解・技能	68.8	67.9	68.2



★指導の工夫と改善

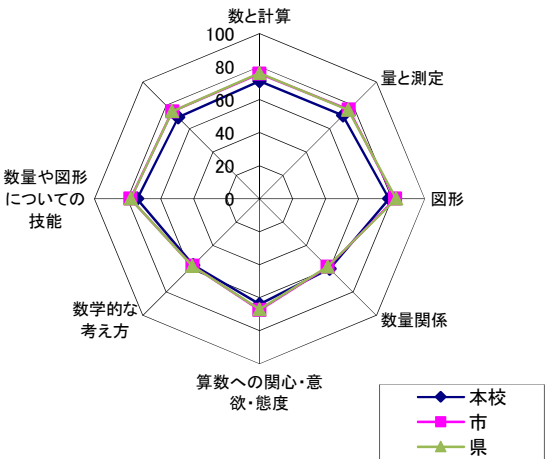
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均の正答率は、県の平均を下回っている。 ○大事なことを落とさず聞き取ったり、話し方の工夫に注意して聞き取ったりする問題では、県の正答率とほぼ同率で、内容の趣旨や話し方の特徴を捉えて聞き取ることができる。 ●話題に沿った意見と理由を考えて話す問題では、正答率が6割に達しておらず、理由を考えたり条件を踏まえて表現したりすることに課題がある。	・各教科や学級活動等の話し合い活動を今後も取り入れ、一人一人が進んで話し合いに参加できるよう努める。 ・話し合いのしかたの掲示資料などを活用し、話し合いがより活性化するように指導する。 ・理由や根拠を示しながら発表させたり、文字数や文章の構成などの条件に合わせて自分の思いをまとめさせたりして、表現力を育成する。
書くこと	平均の正答率は、県の平均を下回っている。 ●誕生日のメッセージを伝える方法について自分の考えをまとめて書く設問では、文字数や段落の構成、中心を明確にすることなどの条件を踏まえて文章を書くことが難しく、正答率は半数以下であった。特に、指定された文字数の範囲で文章を書くことや2段落構成で文章を書くという条件を満たしている児童は3割弱で、文字数や段落に配慮しながら文章を書くということに大きな課題がある。	・複数の条件に合わせて書く機会を増やす。特に、文字数や段落の構成などの条件で自分の思いをまとめる活動を増やし、書く力の育成を図る。 ・段落の意図について取り上げる機会を増やし、読み取りや表現の際に役立てるように指導する。
読むこと	平均の正答率は、県の平均を下回っている。 ●物語文・説明文のいずれも、場面の様子や登場人物の気持ち、段落の役割など細かい点に注意しながら、文章の内容を的確に読み取ることが課題である。 ●インタビュー形式の文章を読み取る設問では、質問のねらいを理解したり、聞きたいことをもとにインタビューの質問を考えたりすることに課題がある。	・国語の授業や朝の学習、家庭学習の課題等で、大事な言葉や文に線を引いたり、自分の言葉でわかりやすく言い換えてまとめたりするなど、読み方のポイントを踏まえて読むよう指導する。 ・読書の時間にはいろいろな分野の本に親しむよう声を掛け、読み取りの力の育成につなげる。 ・いろいろな形式の文章を読み取る機会を設け、力をつけていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均の正答率は、県の平均とほぼ同じである。 ○第3学年の配当漢字の読み書きについては、どれも県の平均値以上の正答率であった。 ●「てっきょう」という言葉をローマ字にする設問では、正答率が4割程度であった。促音や拗音などの表記の仕方に課題がある。 ●国語辞典の使い方については、正答率が3割と低く、言葉の並び方や国語辞典に出てくる形の理解が十分とは言えない。	・既習漢字の確実な定着を図るために、朝の学習や家庭学習の課題等で、前の学年で習った漢字の復習をする機会を設ける。また、日常の中で既習漢字は必ず使うように指導していく。 ・漢字ミニテストを実施し、習熟を図る。 ・「宮っ子学習ステップアップシート」を活用し、漢字や言葉の定着を図る。 ・ローマ字については、復習の機会を設けるとともに、他教科や総合的な学習の時間でパソコンを使った学習を取り入れるなどして、くり返し読んだり書いたりする機会を増やしていく。 ・国語辞典の使い方を復習するとともに、活用する場を設ける。

宇都宮市立城山東小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	71.3	75.8	76.1
	量と測定	71.4	76.5	76.0
	図形	78.4	82.1	82.7
	数量関係	60.0	58.4	58.2
観点	算数への関心・意欲・態度	63.9	67.4	67.0
	数学的な考え方	56.8	57.5	57.7
	数量や図形についての技能	74.2	78.2	78.1
	数量や図形についての知識・理解	69.7	74.8	74.9



★指導の工夫と改善

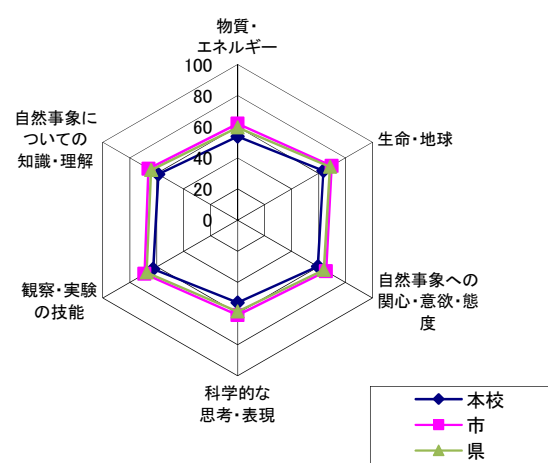
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均の正答率は、県の平均を下回っている。 ○●計算については、正答率の高いものもあるが、3けた＋4けたの繰り上がりがあるたし算や2けた×2けたのかけ算、整数－小数第一位のひき算で正答率が低く、課題がある。 ○小数の仕組みや小数の相対的な大きさについては、おおむね理解している。 ●10000より大きな数における十進位取りの考え方、数の相対的な大きさについての理解については、課題がある。 ●あまりを切り上げたり切り捨てたりして処理するわり算の問題では、問題の場面をよく理解できていないことが課題として挙げられる。	・繰り上がり、繰り下がりに課題が見られるので、もう一度少ないけた数の計算で確認を行う。 ・整数＋小数、整数－小数などのたし算、ひき算は、5年生の問題でも正答率が低いことから、3年生で学習するときに計算の仕方を確実に身に付け、練習を繰り返していく。 ・十進法の位取りの考え方をしっかり定着させ、数直線などを使って数の相対的な大きさを捉える学習を多く取り入れる。 ・文章題では、形式的に立式して解くのではなく、問題の場面をよく理解した上で解かせるようにする。
量と測定	平均の正答率は、県の平均を下回っている。 ○●身近にあるものの重さの単位については、よくできており、量感が身に付いているといえる。その一方で、はかりの目盛りの読み方については、理解が不十分である。はかりの1目盛りの大きさに着目していない誤答が目立つ。 ●道のりの意味の理解が不十分である。	・重さに限らず、長さやかさ、グラフなどを読み取るときに、必ず1目盛りの大きさを確認することが重要であることを繰り返し指導する。 ・道のりの意味については、学習から時間が開いてしまっているため忘れていることも考えられるので、再度復習をする。
図形	平均の正答率は、県の平均とほぼ同じである。 ○正三角形の作図、球の半径から球が2個入った箱の辺の長さを求める問題は、県の平均正答率とほぼ同じであった。 ●円の直径についての理解が、県の平均正答率を下回っており、確認する必要がある。	・算数で使う用語の意味については、繰り返し復習を行って定着を図る。
数量関係	平均の正答率は、県の平均とほぼ同じである。 ○□を使った文章問題(ひき算の場面)を表した図を選び、式に表すことについては、おおむねよくできていた。 ●□を使ったかけ算の式に合った文章問題を選ぶ問題は正答率が低く、課題があるといえる。 ●棒グラフと表の読み取りについては、県の平均正答率とほぼ同じであるが、棒グラフの目盛りの大きさに着目して言葉で説明する問題の正答率は約2割であり、無解答も2割に上ることから、課題があるといえる。	・分からない数を□とした式になるような問題を自分で作る活動を取り入れる。 ・グラフを読み取るときに、必ず1目盛りの大きさを確認することが重要であることを繰り返し指導する。 ・算数に限らず、資料から分かることや読み取れることを言葉で表現する活動を多く取り入れる。

宇都宮市立城山東小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	53.7	61.9	59.4
	生命・地球	63.6	69.8	68.5
観点	自然事象への関心・意欲・態度	59.5	65.6	63.9
	科学的な思考・表現	53.0	61.0	58.8
	観察・実験の技能	62.6	69.0	67.4
	自然事象についての知識・理解	58.8	66.1	64.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均の正答率は、県の平均を下回っている。 ○物の重さについては、種類の異なる同体積の物体の正体を、情報を読み取って推測する設問では県の平均を上回っており、授業で実際に実験した結果をよく理解している。 ●光の性質について特に課題がある。光の性質については、全ての設問が県の平均を下回っている。はね返した光を重ねたところの明るさや、日光を集めた部分の大きさや明るさや、温度との関係についての理解に課題がある。	・実験や観察など体験を通して学んだことを振り返り、知識の定着につなげていく。実験して終わるのではなく、結果をもとに考えたり、話し合ったりして、思考する場面を多く取り入れる。 ・実験結果から導かれた基礎的な知識について十分理解されていない単元については、単元末のまとめを確認したり、練習問題に取り組むなどして、基礎的な知識の定着をはかる。 ・光の性質については、学習したことを身近な事象を関連付けたり、話題にしたりして、知識を生かしていけるようにはたらきかける。
生命・地球	平均の正答率は、県の平均を下回っている。 ○植物の育ち方、太陽と地面のようすにおいて、県の平均を上回っている設問もある。ハウセンカの育ち方や温度計の読み方など、観察を通して学習したことが身に付いている。 ●こん虫のからだのつくりについては、トンボとクモが昆虫かどうか見分けるなどの基礎的な理解の定着が、今後の課題である。 ●こん虫の育ち方については、トンボの育ち方やヤゴに関する正答率が低く、観察で取り扱わなかったこん虫についての理解に課題がある。	・こん虫のからだのつくりについては、まだ理解が十分ではないので、プリントなどで復習をする。実際にこん虫を見せながら、からだのつくりを確認すると、興味関心も高まり、理解につながる。 ・いろいろなこん虫についての育ち方を確認したり、復習したりする。また、こん虫のからだのつくりの共通点なども確認していく。 ・身近な自然や事象について「なぜ」「どうして」というように促したり、自分の目で確かめたり、科学的な興味関心を高め、実験・観察し、科学的な思考につなげていく。

宇都宮市立城山東小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○学びの基礎力についての質問では、学びに向かう力、学びを律する力に関する各設問における肯定的な回答が高い傾向である。「学校の宿題は、自分のためになっている」「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」「ぎ問や不思議に思うことは、わかるまで調べたい」という設問では、肯定的に捉えている児童が多いことから、学習意欲が育ち前向きに取り組んでいることが分かる。

○社会的実践力についての質問では、「ものごとを最後までやりとげてうれしかったことがある」「人と話すことは楽しい」では9割以上、「自分がもっている能力を十分に発ぎしたい」では8割、「しょう来のゆめや目標をもっている」では9割が肯定的回答をしている。豊かな心を持ち、未来に向かって希望を持って生活していることがわかる。

○●学級での様子では、「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」の設問では肯定的な回答が多いことから、話し合い活動に進んで参加し、活発に意見を発表し合っていることが分かる。一方「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができている」では肯定的な回答を示した児童が8割を超えているものの、どちらかといえぱいいえと回答した児童も2割近くいる。聞くことの大切さを伝え、「人の話を最後まで聞く」ことを継続的に指導していく。

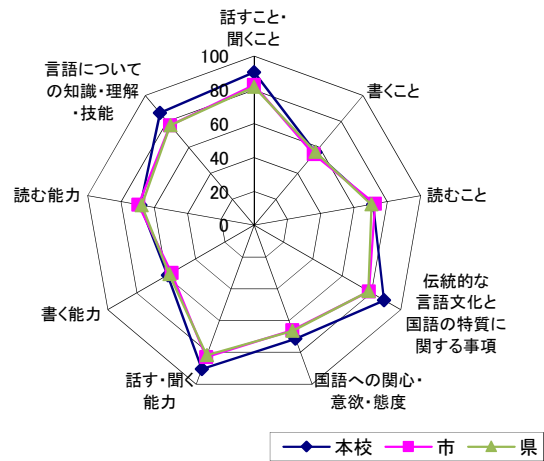
●家庭学習についての設問では、「家で学校の宿題をしている」の設問の肯定的な回答が高いものの、「家で、学校の授業の予習をしている」や「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」などの設問には肯定的な回答がやや低い傾向がある。決められたことに取り組むだけでなく、自分で計画を立て学習する習慣がつけられるよう、自主学習の取り組みなどを紹介し家庭学習の取り組みについて考える時間を設ける。また保護者会などでも、家庭学習の重要性を伝えていく。

●「自分はクラスの人の役に立っていると思う」「自分は勉強がよくできる方だと思う」の設問では肯定的な回答がやや少なかった。自己肯定感や自己有用感がやや低い傾向にあることが分かる。児童の良いところを見取り、ほめて伸ばす指導を継続していきたい。自己有用感を高めることで更に学習への意欲を高めていきたい。

宇都宮市立城山東小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	90.5	82.9	81.8
	書くこと	56.3	54.8	56.5
	読むこと	71.4	72.6	70.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	88.7	78.4	78.1
観点	国語への関心・意欲・態度	71.4	66.0	66.4
	話す・聞く能力	90.5	82.9	81.8
	書く能力	59.0	56.3	57.9
	読む能力	68.3	69.5	67.6
	言語についての知識・理解・技能	86.7	77.2	77.1



★指導の工夫と改善

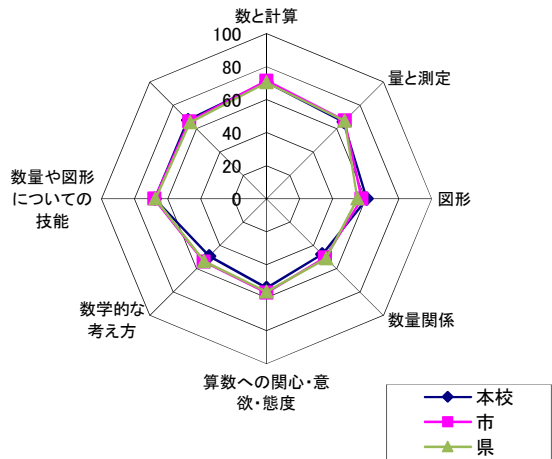
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均の正答率は、県の平均を上回っている。 ○学級会での話し合いのようすを聞き取る問題では、9割の児童が正しく聞き取ることができた。また、司会の役割として2人の児童の発言の共通点をまとめることができた。	・各教科や学級活動などの話し合いを通して、意見をまとめて整理することや、順序を示すことなどの司会としての役割を経験できるようにする。また、参加者としての意見の述べ方や、他の人の意見を聞く活動をしていく。
書くこと	平均の正答率は、県の平均とほぼ同じである。 ○たてわり班遊びについてのアンケートをもとにして、もっと良いものにするためにはどうすればよいのか考えを書く問題では、7割の児童が話の中心を明確にし、7行から9行の指定された長さで書くことができている。 ●しかし、2段落構成で書けたのは4割弱の児童で、県の平均を下回っている。	・文章を書くことに慣れていない児童が多いので、指定された段落数や文字数で自分の考えや文章を読んでまとめる経験を増やしていく。 ・国語の授業や朝の学習、家庭学習で、簡単な文章を書く学習を継続して行い、書く力の育成を図る。
読むこと	平均の正答率は、県の平均とほぼ同じである。 ○説明文の読み取りでは、文章の内容を読み取ることや、段落のまとまりを理解して読み取ることがよくできていた。 ●物語の読み取りでは、目的や必要に応じて場面の様子と登場人物の気持ちを読み取ることが県の平均を大きく下回っている。	・要点をとらえて読めるように、大事なところに線を引いたり、内容をまとめたりする等、読み取りの仕方の指導を行っていく。 ・国語の時間に加え、朝の学習や家庭学習でも簡単な文章の読み取りの練習を行っていく。 ・読書の時間では、いろいろな本に触れられるように促していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均の正答率は、県の平均を上回っている。 ○4年生で学習する漢字の読み書きは、県の平均を大きく上回っており、特に「連続」「競争」「束」は全員が読むことができた。 ●文の構成(連体修飾語)は6割を下回る正解率だった。「来週の土曜日に、野球の試合がある」の「試合が」を詳しく説明している言葉を選ぶ問題で、正しくは「野球の」だが、「土曜日に」と誤答する児童が多かった。	・既習の漢字の定着を図るために、朝の学習や家庭学習で復習する機会を作ったり、ミニテスト等を行ったりする。 ・普段から既習の漢字を使って書くように促し、漢字を使う機会を増やしていく。 ・文の構成の問題にも取り組む機会を作る。

宇都宮市立城山東小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	70.7	71.5	70.4
	量と測定	65.9	67.0	66.9
	図形	60.7	57.6	55.0
	数量関係	47.6	50.2	51.1
観点	算数への関心・意欲・態度	54.0	57.0	56.3
	数学的な考え方	49.1	53.8	53.6
	数量や図形についての技能	67.7	68.0	67.4
	数量や図形についての知識・理解	67.4	66.3	65.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

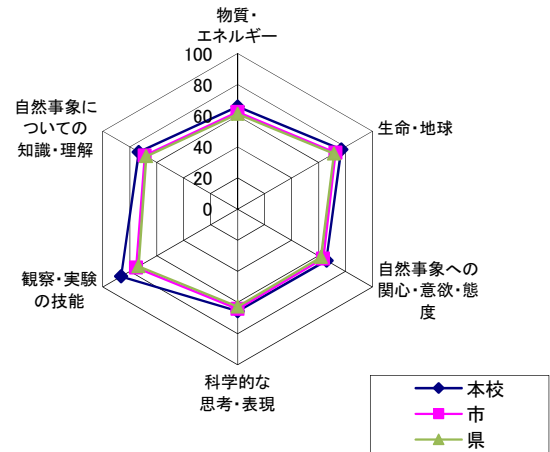
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均の正答率は、県の平均とほぼ同じである。 ○同分母の分数のたし算、ひき算については、県の平均を上回っており、おおむね理解できているといえる。 ○●小数の仕組みについては正答率が9割と高く、理解できているといえる。しかし、小数の計算については、正答率の高い問題がある一方で県の平均を下回る問題もあり、課題があるといえる。小数第一位＋整数の計算では、整数を4→4.0と理解できていないと思われる誤答、かけ算の計算の仕方と混同している誤答が多く見られた。また、小数第一位×整数の計算でも課題が見られた。 ○●倍とわり算の文章問題において、問題に合った式を選ぶことはできているが、図を選ぶ問題では正答率が約5割であった。数の大きさの感覚がつかめていないことや図に表すことに慣れていないことが課題といえる。	・学習の系統性を意識し、新しい単元の学習の前に、その学習につながる既習の学習の振り返りをする時間をとることで、これから学習することの見通しをもつことができるようにする。 ・整数や小数などの、数の大きさの感覚、量感がつかめるよう、位を意識したり数直線に表したりする活動を多く行う。 ・小数のたし算、ひき算、かけ算、わり算と学習を進めていく過程で、その都度、それまでに学習してきた計算を織り交ぜて復習する。 ・文章題では、その問題では何を求めるのか、どのような計算になるのかを視覚的に理解できるよう、テープ図や線分図に表す活動を多く取り入れる。
量と測定	平均の正答率は、県の平均とほぼ同じである。 ○長方形の面積を求める問題では、正答率が100%であり、よく理解しているといえる。 ●複合図形の面積を求める式を選ぶ問題では、言葉で書かれている面積の求め方と図から、それを表す式を選ぶことに課題が見られた。また、大きな長方形の面積を5等分した長方形の一辺の長さを求める問題でも、課題が見られた。	・複合図形の面積については、求積の仕方を言葉や数式、図形などを用いて筋道を立てて考え、友達に分かりやすく説明する活動を多く取り入れる。また、自分の考えを説明するだけでなく、友達の考えた図や式などを読み取る活動も取り入れる。
図形	平均の正答率は、県の平均を上回っている。 ○四角形の対角線や直方体の辺など、図形の性質については、おおむね理解している。 ●地図から情報を読み取り、平行四辺形の特徴を使って2つの道のりが等しくなる理由を説明する問題では、算数で使う用語の理解や、多くの情報から必要な情報を読み取ること、説明のために必要な根拠を選ぶことなどに課題が見られた。	・図形の特徴と生活の中にある図形とを、結び付けて考えられるようにする。 ・授業の中で友達に説明をするときは、目的をはっきりさせ、説明に使うキーワードを示すなど、算数の用語(本問題では、平行、垂直、道のり、等しい、辺ABなど)を使って分かりやすく説明できるようにする。 ・朝の学習(ぐんぐんタイム)で、活用問題に取り組む時間を設ける。
数量関係	平均の正答率は、県の平均とほぼ同じである。 ○四則の混じった計算のきまりについては、よく理解している。 ●折れ線グラフと棒グラフを読み取り、それを根拠に理由を説明する問題では、正答が少なく、無解答も3割程度見られることから、課題であるといえる。	・算数の時間だけでなく、社会科や総合的な学習の時間などで、必要な情報を収集し、目的に応じて表やグラフを用いて表したり、そこから読み取ったことを根拠に明らかにして説明したりする活動を意図的に取り入れていく。

--	--	--

宇都宮市立城山東小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	65.9	62.4	61.1
	生命・地球	76.8	72.5	71.4
観点	自然事象への関心・意欲・態度	65.9	63.4	61.7
	科学的な思考・表現	65.5	64.1	62.6
	観察・実験の技能	86.4	75.2	73.5
	自然事象についての知識・理解	73.3	68.8	67.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均の正答率は、県の平均を上回っている。 ○「金属を加熱する実験結果から、金属の体積変化について推測する」問題、「空気でっぽうで、おし縮めた空気のもとにもどろうとする力によって玉が飛ぶ」問題など、実験や体験をもとに解答する問題の正答率が高い。 ●「水のすがた」「物のあたたまり方」「電気のはたらき」の単元の理解に課題がある。「水の状態変化」について、加熱した水から立ち上る白い湯気を液体でないと誤答した児童が多かった。電気を通す物質同士の接触と、回路の構成を結びつけて考える問題が児童にとって難しく正答率が低かった。	・学習の「めあて」を意識させ、何のために実験や活動を行うのかを明確することで、主体的・能動的な学習を進めさせる。 ・「水のすがた」「物のあたたまり方」では、普段の生活で観察される現象を想起させ、学習した知識を用いて説明できないか考えたり、現象を調べたりすることで、学習知識の定着や科学的なものの見方の定着を図る。 ・「電気のはたらき」の学習では、直列や並列回路の特徴などを実験を通して確実に理解させる。 ・学習キットなどを利用した電気工作を行い、電気回路を身近に経験させ、電気の働きや電気の通り道などを具体物を通して理解させる。
生命・地球	平均の正答率は、県の平均を上回っている。 ○「植物の成長」では、花が咲き終わった後に実ができ種ができること、「天気の様子と気温」では、折れ線グラフの気温の変わり方から天気を推測することの正答率が高かった。「月と星」では、星座早見の使い方を正しく理解していることが分かる。 ●「自然の中の水」の学習では、容器に入れた水の実験で、ふたをしたものとふたの無いもので容器に残る水の量に違いがあることや、ふたの内側に水滴がつくことなど、蒸発にかかわる理解に課題があった。「月と星」では、星の正しい観察の仕方の理解ができていなかった。	・水の常温での蒸発を、比較実験を通して実感できるようにする。そのためには、実験の目的を明確にし、全員が観察を行い、結果を言葉や文で記録に残すなど、より印象に残るような観察のまとめを行い理解の定着を図る。 ・「月と星」の学習では、星座早見を使った月や星の観察ができるように指導する。その際、目印になるものは動かないものにするなど、また、同じ場所から観察することなどを強調して指導する。また、家庭に協力してもらい、実際に夜空を観察する経験ができるよう働きかける。

宇都宮市立城山東小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○学びの基礎力についての質問では、自ら学ぶ力の「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」「家で、学校の宿題をしている」「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」や学びに向かう力の「学習して身に付けたことは、しょう来の仕事や生活の中で役に立つと思う」では肯定的な回答をしている児童が多い。自分から学習に向かい、しょう来への希望をもって取り組んでいることがわかる。

○社会的実践力の質問では、「自分のよさを人のために生かしたいと思う」という設問での肯定的な回答は9割を超えている。また「しょう来のゆめや目標をもっている」の設問でも肯定的な回答が8割を超えている。自分の将来に夢や希望をもって生活していることが分かる。

○教科についての質問の「次の教科の授業の内容はよく分かりますか」では、国語と算数では8割以上、理科では9割以上の肯定的な回答であった。授業の内容を理解している児童が多いことが分かる。

○●学校での様子では、「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」という設問では、すべての児童が肯定的回答をしている。人の話をよく聞いて学習していることが分かる。反対に「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」の質問では、肯定的な回答が5割を切っている。まずは小グループで、自分の考えを友達に伝える活動を多く持ち、自信を付けるようにしたい。

●家庭学習力については、「家で学校の授業の予習をしている」「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」の肯定的な回答がやや低い傾向にある。決められた宿題はほとんどの児童が取り組んでいるが、自ら学ぶ力はまだ十分でないといえる。家庭学習の取り組みなどを紹介し、自分から進んで調べる習慣をつけていきたい。

●「自分はクラスの人の役に立っていると思う」の設問や「自分には良いところがあると思う」「自分の行動や発言に自信をもっている」の設問では肯定的回答が県や市より低い傾向にある。自己肯定感や自己有用感がやや低い児童が多いと推測される。児童の良いところを認め伸ばす指導を心がけ、児童が自分の持ち場で力を発揮できるようにしていきたい。

宇都宮市立城山東小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
復習により定着を図る学習の充実	・前学年までの「宮っ子学習ステップアップシート（漢字・言葉・計算・図形・量）」の計画的な実施	・国語の漢字の読み・書きでは、4、5年生ともに正答率が県の平均を上回っており、繰り返し練習を行った成果といえる。 ・算数の計算については、問題によって正答率に大きな差が見られ、さらに効果的な復習を行っていく必要がある。
言語活動の充実による主体的・対話的な指導の実践	・学び合い活動の日常化 ・学び合わせるための課題設定や発問の工夫 ・考えを書いてから話し合うなどの学習過程の工夫 ・ペアや少人数グループなどの学び合い形態の工夫 ・話し方・聞き方の段階的な指導や話し合いのポイントを示した掲示資料の活用 ・本を介しての学び合い学習の実践	・5年生の国語では、「話すこと・聞くこと」の領域で正答率が高い。4年生では、大事なことを落とさずに聞くことはできているが、意見の理由や根拠を示して話すことには課題がある。 ・質問紙における「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」の質問では、4年生は約6割が肯定的回答をしている。5年生では、肯定的回答が半数以下となっている。「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができている」では、4、5年生ともに約75%が肯定的回答をしており、県の平均とほぼ同じである。
読書活動の推進	・各学年20冊の必読書設定及び読書記録カードの活用 ・家読の推奨 ・読み聞かせボランティア等による読み聞かせの実施 ・学級担任と学校図書館司書との連携による、本を介した学び合いの授業の実施	・1か月に読む本の冊数は、県の割合を上回っており、日頃から本に親しんでいる。

・実感を伴った知識を身に付けるための、作業的・体験的活動の充実	・様々な物や事象について、実際に大きさを調べたり確かめたりする作業的・体験的な活動の充実 ・日常生活における身近な物を測ったり身近な事象に目を向けたりする機会の設定	・算数における身近にあるものの重さの単位については、正答率が8割を上回っている。しかし、身近にあるもののおおよその面積については、正答率が5割に達していない。今後も継続して作業的・体験的な学習を充実させ、長さや面積、かさ、重さなど、量の大きさについての感覚を身に付けさせたい。
---------------------------------	---	--

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
算数の計算については、問題によって正答率に大きな差が見られた。学習したときには理解できていても、新しい学習に移ったときに忘れてしまったり、新たに出てきた他の計算の仕方と混同してしまったりすることが課題である。	復習により定着を図る学習の充実(算数に重点を置く)	学習の系統性を意識し、単元の導入の段階で、その学習につながる既習の学習の振り返りをする時間をとり、これから学習することの見通しをもつことができるようにする。 また、単元のまとめや朝の学習などで、複数の単元の内容をまとめて復習する時間を設け、それぞれの学習の共通する点と異なる点を整理して身に付けられるようにする。